

平成22年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等		
<b>object 1</b> <b>【学び】</b> <b>確かな学力と自ら学ぶ力を育て、進路目標を実現し、よりよく生きるための力を育成する。</b>	<p>①学習への動機付けと学習法の習得、学習の継続を促す効果的な指導や試験について研究・実践する。</p> <p>②土曜日や長期休業中の学力向上と大学受験に向けた講座を拡充し、学び高めあうことを促す。</p> <p>③学力判定テスト・模擬テスト・英語到達度テスト等のデータを活用し、その分析結果を進路選択・進路実現に活かすシステムの構築を図る。</p> <p>④学年、教科が連携し、「キャリア教育プラン」に基づき、自分らしさを探求するための教科指導、ホームルーム指導等を行う。</p> <p>⑤「生徒による授業評価」を分析・活用し、各教科での授業研究や協議、授業公開・研究発表会を通して授業改善を進め、教科の指導力を高める。</p> <p>⑥生徒が主体的に進路実現を目指すように、高大連携事業をより推進する。</p> <p>⑦将来の職業選択を見据え、学ぶこと、働くことの意義の理解につながる取組みを推進する。</p> <p>⑧「キャリアファイル」の有効活用を図り、「勉強のしかた」「シラバス」「県相50冊の本」等をまとめるとともに、統一的なポートフォリオの作成を目指す。</p>	<p>○学習への動機付けと学習法の習得、学習の継続を促す効果的な指導ができたか。</p> <p>○土曜日や長期休業中の講座が拡充できたか。</p> <p>○各種データを活用・分析し、進路選択・進路実現に活かすシステムが構築できたか。</p> <p>○キャリア教育プランに基づいて学年・教科が一体となった取組みが進められたか。</p> <p>○授業研究が計画的に実施され、授業改善や教科指導力の向上が図れたか。</p> <p>○高大連携事業により、学ぶ意味の深まりや進学意識の向上が見られたか。</p> <p>○学ぶこと、働くことの意義の理解につながる取組みを行ったか。</p> <p>○「キャリアファイル」は活用できたか。</p>	<p>○学習への動機付けと学習法の習得、学習の継続を促す指導については、さまざまな取組を行った。</p> <p>・1年生4月の「学習オリエンテーション」では、授業に取り組む姿勢やノートのとおり方等を説明し、学習への関心意欲を持たせることができた。</p> <p>・国語において、早稲田大学と連携授業を11月に1年生全クラスを対象に行い、「聞く・話す」力の向上につなげられた。</p> <p>・数学において、週末プリント課題については、基礎から発展へと取り組みやすいよう出題を工夫した。</p> <p>○夏期講習・補習を5教科で計画的に行えた。特に夏季休業中は部活動終了後の夕方に補習を行った。</p> <p>・定期試験前の補講(数学)、定期試験後の追試(数学)、授業期間中の早朝・放課後講習(国語・数学)などを行い、基礎的・基本的な知識の定着や学力の向上を図った。特に3年生は、夏期講習後も早朝講習や放課後の生徒対応を継続し、互いに学び高めあう姿勢が見られるようになった。</p> <p>・1年生については、少人数の展開授業(英語・数学)を行い、一人ひとりにきめ細かな指導をすることができた。また、グループ学習も行い、主体的に学習できる姿勢が見られた。</p> <p>○各種データの分析・活用は一定の成果を上げられた。</p> <p>・「生徒による授業評価」を実施し、各教科の分析を集約して活用を促し、研究授業・協議・授業改善の手順を整えることができた。さらに授業改善の手立てを生徒・保護者に適切に伝えることができた。</p> <p>・GTEC(英語到達度判定テスト)の結果を分析し、弱点補強など来年度に向けての指導計画ができた。</p> <p>・各定期テスト・模擬試験の結果を迅速に伝え、現在の課題や今後の方針を話し合うことができた。</p> <p>・体育の各種目でスキルテストによる技術達成度の確認が実施できている。</p> <p>・新体力テスト結果は、各生徒個別には有効利用ができたが、集団としての活用に工夫が必要だった。</p> <p>○キャリア教育プランに基づく取組は、特に教科において進められた。</p> <p>・「情報」の授業では、問題解決学習による実習は効果をあげている。各生徒が自分のスピードで課題を学んでいくことができるので、個々の生徒の特性に合わせた学習ができています。</p> <p>○授業公開(10月)や研究授業発表会(12月)を行い、研究協議等を通して、授業改善や指導力の向上を図ることができた。</p> <p>○2年「総合的な学習の時間」高大連携の講座数は、連携・協力大学の数を増やし、昨年度以上とすることができた。また、代替講座を受講する生徒も増加し、積極的な受講姿勢を育むことができた。</p> <p>○3年「総合的な学習の時間」において、「校内オープンキャンパス」「社会の先輩に聞く」など、生徒の進路選択や職業理解の意識を高める企画が実行でき、生徒からも好評であった。</p> <p>○「キャリアファイル」を1・2年生徒全員に持たせ、各種テスト結果を記録すると共に、2年では「総合的な学習の時間」における活動をレポートにまとめさせた。</p>	<p>○ホームルーム活動、個人面談、進路実現に向けての指導を通じ、減少傾向にあった家庭学習時間を増加傾向に向けることができつつあるが、さらにこの傾向を拡充、伸長させたい。</p> <p>・日々の学習習慣については、大半の生徒が身に付き充実した生活を送ることができてはいる。さらに生徒は予習復習によく取り組み、積極的な授業参加が見られた。特に表現力、読解力の向上を目指す。</p> <p>○講習・補習については、教育的効果を測定し、来年度に向けた展望を得る。</p> <p>○学力判定テスト・模擬テストの結果分析を行い弱点の克服ならびに得意分野の伸長を促す。</p> <p>・進路指導に係るデータを活用するシステムを導入し、1、2年の校内模試の分析に活用した。さらにデータ整備を進める。</p> <p>○授業改善を推進する上で、生徒が主体となった授業展開など研究授業を通して職員のより一層の研鑽を必要とする。</p> <p>○3年「総合的な学習の時間」における小論文や各自で取り組むワークシートなどへの生徒の取り組みへの意識を高め、充実を図りたい。</p> <p>○キャリア教育プランは、成果が得られており今後も推進していく。自己目標の設定が学習意欲を高めることから、面談や進路情報の提供を通して、早期に自己理解ができるようにしていく。</p> <p>○「キャリアファイル」の活用は、今後さらに進路指導に係わる場面での有効活用方法の見直しを進めている。</p>	<p>(学校評議員 保護者)</p> <p>○言語能力も学力だということを気付かせることが大切。</p> <p>○受験勉強で集団学習を取り入れてはどうか。</p> <p>○受験学力をどうつけさせるか。</p> <p>・基礎を学ぶこと。</p> <p>・基礎のスピードが付くと応用もきいてくる。</p> <p>○目標の明確な共有が必要である。</p> <p>○授業評価の項目が主体的な授業についての内容になっていないところがある。</p> <p>○授業評価の項目に「評価の分析、改善の方向」を入れるべきである。</p> <p>○高大連携については、自発的要素をプログラムに入れるべきである。</p> <p>・生徒が自分で課題を選んでそれについて調べて大学で指導を受ける形が良いと思う。</p>	<p>○学習の動機づけと学習法の習得等は、様々な情報の日常的な提供、総合的な学習の時間の活用、講演会などを行っているため生徒の意識はかなり高まっている。</p> <p>○補習・講習については、部活動との関係を整理し学校としての取り組む体制作りができつつある。</p> <p>○学力判定テストや模試の結果は、全教員に周知し、各教科指導の参考にできた。また、面談や生徒及び保護者対象の講演会の資料として活用できた。</p> <p>○授業公開、研究授業発表会、外部講師を招いての講演会を行うことにより授業改善の効果がみられるようになった。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等		
<p>object 2</p> <p><b>【育ち】</b></p> <p>自らの力を活用し、人や社会と進んでつながり、多様なコミュニティのキーパーソンとなる人づくりを目指す。</p>	<p>①あらゆる機会を捉えて、校訓「礼節・信義・根性」や校歌に込められた精神を意識させ、交通安全教育やいじめ防止の人権教育をはじめとしたすべての教育活動を通して、生活習慣の確立と、命を大切にし他者を思いやる心を育む。</p> <p>②学校行事や学校説明会、サマースクールへの生徒の積極的な参画を促す。</p> <p>③積極的に社会と関わる力と態度の育成を目指し、シチズンシップ教育を実践する。</p> <p>④社会の一員としての自覚を深めるため、地域行事への積極的な参画を呼びかけ、多様な地域貢献活動やボランティア活動への取組みをより推進する。</p> <p>⑤ホームルームをはじめ、部活動や生徒会活動を通じて、心身の健全な発達を促し、コミュニケーション能力や企画・運営力を育成する。</p>	<p>○授業計画や事業計画の中に校訓を意識して取り入れ、命を大切にし他者を思いやる心を育む教育活動に取り組めたか。</p> <p>○学校説明会等への生徒の参画を促すことができたか。</p> <p>○生徒の実態を踏まえたシチズンシップ教育の実践ができたか。</p> <p>○多様な地域貢献活動やボランティア活動への取組みをより深め、定着させることができたか。</p> <p>○諸活動が、生徒のコミュニケーション能力や企画力等の育成につながったか。</p>	<p>○集会などにおいて基本的生活習慣の確立を呼びかけ、生徒が自らの生活習慣を考えるようになった。</p> <p>・定期テストにおいて服装・頭髪検査を行い、学年ごとに効果的な指導が行われつつある。</p> <p>・2回の街頭指導を通じて、自転車の乗車指導を中心とした交通安全指導を行うことができた。</p> <p>・雨天時におけるカップの着用率を増加させることができた。</p> <p>○学校説明会等への生徒の参画は増加した。</p> <p>・今年度から全公立展で生徒による説明を実施した。サマーガイダンス、オープンスクールでは受付で生徒も一緒に対応を行うなど、生徒による学校紹介を実施した。</p> <p>○7月に行なった「模擬投票」では、「現代社会」の授業を通して、事前学習をした上で、実際の選挙を想定しての投票を行い、シチズンシップ教育が実践できた。</p> <p>○地域貢献活動を持続可能な形にすることができた。</p> <p>・外部講師の活用は、国語、家庭科などで工夫を行っている。</p> <p>○諸活動で生徒のコミュニケーション能力や企画力の伸長が見られた。</p> <p>・体育祭、文化祭を通じ、3年生が指導的役割を果たし、1・2年も生徒が主体的に取り組み活動できた。</p> <p>・2年の修学旅行では委員会による資料作りや啓発活動を行った。</p> <p>・諸行事に対する生徒の満足感は高く、おおむね成功と言える。それぞれの生徒が良く努力し、各企画に於いて自主的運営ができていた。</p> <p>・百人一首大会、球技大会において、生徒が主体的に運営を行いクラスの団結を深めることができた。</p>	<p>○集会などあらゆる教育活動の機会のなかで、校訓にこめられた意識を取り入れる。</p> <p>・一部の生徒ではあるが、校訓や校歌に込められている理念から逸脱した生徒の言動もある。職員も含め、あらゆる教育機会において、全校を挙げて取り組む。</p> <p>・校歌の理解については、生徒会本部の生徒に働きかけて方策を検討中である。指揮者や伴奏の依頼方法や、運営方法を検討し、より生徒中心に楽しく歌えるようにする方法を今後生徒と共に模索する。</p> <p>・命を守る、他者を思いやる心という意識の下、基本的生活習慣の確立と交通規則の遵守をより徹底させる必要がある。</p> <p>○次年度も引き続き、学校説明会等での生徒の参画を促す。</p> <p>○本年度中止となった地域貢献活動の清掃については、担当部署を変更し新しい企画で取り組む。近隣の自治会との協働事業として行っていく。</p> <p>○他と連携して、全体を統括するリーダーシップが適切に発揮されたか、個々の生徒に人との関係についての学びや全体に貢献する責任感があったかという点については、生徒の人間関係力の低下とともに、課題が残る。</p>	<p>(学校評議員 保護者)</p> <p>○交通事故(特に自転車)対策を行う必要がある。</p> <p>○学校は社会の縮図であり、壁にぶつかりながら考えてほしい。</p> <p>・自分を大事にして進んでほしい。</p> <p>・行事で作り上げた力を勉強に向けてほしい。</p> <p>○社会に出ても打たれ強い子どもに育て上げたい。</p>	<p>○学校行事において生徒の自主性や企画力を発揮する中で、校訓を考えさせる必要がある。</p> <p>○学校説明会において積極的に生徒が関わる場面が増え充実した内容となった。</p> <p>○地域の活動について積極的に参加することができ、今後さらに関係を維持発展させたい。</p> <p>○ホームルーム活動、生徒会活動や学年行事において、他者のことを考えながらまた、思いやりながら活動し生徒のコミュニケーション能力も伸長した。</p>

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善の方向等		
<p>object 3</p> <p><b>【支え】</b></p> <p><b>保護者や地域の信頼と協働による学習環境の整備・充実を推進するとともに、生徒の健やかな成長と確かな学力の育成を支える仕組みづくりに取り組む。</b></p>	<p>①学校運営に対する様々なニーズを知ること、生徒・保護者・地域関係者等で構成する「Kenso Consideration Committee(略称KCC)」を設立する。</p> <p>②ゴミの分別・減量化や教室・トイレ等の日常清掃により、学習環境の整備に自ら進んで取り組む態度の定着を図り、環境保全やより良い環境づくりの意識を育む。</p> <p>③自治会や社会福祉協議会等と連携・協働して、学校周辺の清掃活動や環境整備活動(歩道脇の花壇づくりなど)に取り組む、地域の美化に貢献する。</p> <p>④PTAと連携・協働した、校舎等の破損・老朽箇所の修繕やトイレなどの環境整備の取組をより推進する。</p> <p>⑤学校ホームページや学年通信等による情報の発信・交流をより拡充し、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>⑥地域や保護者を巻き込んだ「食育」やあいさつ励行の取組などを通して、生徒の健やかな成長と社会マナーの定着を図る。</p> <p>⑦校内組織の業務内容や業務プロセスを改善するとともに、ファイリングシステムの構築を図り、チームを基盤とした機動的・組織的な学校運営を目指す。</p>	<p>○「KCC」を設立し、学校運営に対する様々なニーズを収集することができたか。</p> <p>○ゴミの分別・減量化や日常の清掃・美化活動に生徒自らが積極的に取り組む姿勢を育成できたか。</p> <p>○自治会や社会福祉協議会、PTAとの連携・協働の取組みがより進んだか。</p> <p>○ホームページ等による情報発信の頻度及び質が高まったか。</p> <p>○地域や保護者を巻き込んだ「食育」やあいさつ励行の取組みを行ったか。</p> <p>○ファイリングシステムの構築などにより、機動的・組織的な学校運営ができたか。</p>	<p>○KCCを設立し、様々な講演会などの企画・運営を行った。</p> <p>○生徒からの要望の強かった、自習室の設置に取り組んだ。</p> <p>○委員会名の変更(文化→福祉)や、バドミントン同好会を設立した。</p> <p>○清掃美化委員による、清掃チェックカードの導入で、ゴミの分別など、生徒が自ら清掃活動に取り組むことができた。が、3年では選択授業の関係から毎日の清掃が難しい。</p> <p>○自治会や社会福祉協議会、PTA外部の方々との連携・協働においては、種々の行事等を通して、充実したものとなった。</p> <p>・体育館やグラウンドの一般開放は、著しい利用効率のアップはないが、おおむね良好と思われる。</p> <p>・サマーガイダンス、オープンスクールにおいて保護者による学校説明を実施し、参加者から好評を得た。また、PTAと協働で校内の草むしりやトイレ等ペンキ塗りの校内環境整備を行った。</p> <p>○情報発信はさまざまな面で活性化することができた。</p> <p>・学校PR紙(「柴胡が原便り」)を再刊し、広報活動を拡充した。</p> <p>・学校HPは、情報発信の頻度及び内容の充実を図ることができたが、</p> <p>・各学年とも、学年通信を発行し、情報提供を行うと共に、三者面談や学級懇談会、進路説明会を実施し、保護者の理解を深め、連携を図った。</p> <p>・「食育」は学力向上方策の一環として、1・2年対象講演会、お弁当作り講習会などに、保護者も交えて取り組み、大きな成果を上げることができた。</p> <p>○成績処理支援システムの導入を行い、運営することができた。運営上の問題点も把握でき、より円滑な運営の手順が把握できた。</p> <p>○ファイリングシステムの構築をはかり、各種キャビネットを整備し、保管文書等を適切にファイリングすることができた。</p>	<p>○KCCにおいては、生徒の組織はできつつある。保護者と地域関係者との関わりが次年度の課題となる。</p> <p>○土曜日、日曜日、長期休業中の自習室については、設置ができ生徒に好評である。平日の使用についてはさらに研究・検討していく必要がある。</p> <p>○生徒自らが清掃活動に積極的に取り組むことができた。今後も学年での指導を徹底したい。</p> <p>・日常生活の中でゴミを出さない、分別を行うという意識の啓発活動を行う。</p> <p>○PTAとの校内環境整備は、さらに、連携・協働を充実させ引き続き継続していく。</p> <p>○ホームページに対する保護者の感想、要望を聞く機会を増やし、ニーズに即した内容にするように努める。今後は組織的管理・運営の仕組みを作っていく必要がある。</p> <p>○外部講師を招いての講演会や保護者と生徒が共に参加した弁当づくりのワークショップをPTAと協働開催し、学校を挙げて「食育」に取り組む成功を収めた。今後も定着・発展させていく。</p> <p>○ファイリングシステムの構築により、常に振り返りまた過去の情報収集ができるシステム体制の整備を継続していく。</p>	<p>(学校評議員・保護者)</p> <p>○学力向上だけでなく、子どもとの関係、学ぶことのよさを体験させる。</p> <p>○過保護にしてはいけない。キーワードは自立である。</p> <p>○社会に出た時には、個人の資質、粘り強さが必要である。</p>	<p>○本年度新たに創設した「研究グループ」の業務遂行は円滑に行うことができた。</p> <p>○環境整備作業等に生徒も保護者も積極的な参加があり、環境意識が高まっている。清掃美化に努め、美しい環境づくりを行った。</p> <p>○ホームページの更新は、頻繁に更新することができ学校における情報発信とすることができた。</p> <p>○校内組織の業務内容の改善とファイリングシステムの構築により、機動的・組織的な学校運営を継続する。</p>